

「生徒の学習意欲を引き出す授業の工夫」

～課題解決につながる知識・技能の定着を目指して～

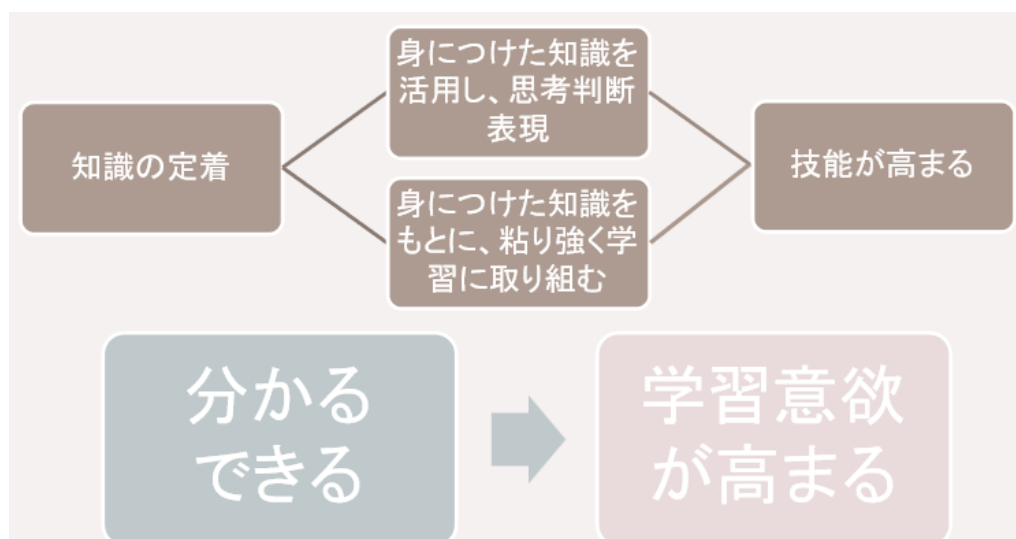
座間地区研究部 座間市立南中学校 教諭 西尾 堯之

1. はじめに

座間市中学校体育連盟保健体育科研究部会では、各校の生徒の実態から「授業に対する意欲を引き出せていない」ことや「習得すべき技のポイントを理解することができていない」、「技能を身につけるために必要な知識が定着していない」という課題があると分析した。知識を定着させることが、技能習得の一助となること、そして、身につけた知識をもとに自ら課題を解決しようと思ったり、粘り強く学習に取り組む意欲を引き出したりすることができるのではないかと考えた。

本研究では、知識を起点として技能を身につけ、その結果、学習する意欲を引き出す方法を研究することにした。

<研究のイメージ>



2. 研究の経過

- (1) 令和4年度『生徒がICT機器を活用した深い学びを実現させる授業の研究』
- (2) 令和5年度『生徒の学習意欲を引き出す授業の工夫～知識・技能の定着を目指して～』
- (3) 令和6年度『生徒の学習意欲を引き出す授業の工夫～課題解決につながる知識・技能定着を目指して～』

3. 研究の内容

- (1) 事前アンケート結果からの生徒の課題分析
- (2) 生徒の実態に即した授業実践（知識及び技能の定着を目指した授業の工夫）
- (3) 事後アンケート結果からの生徒の意識分析

4. 研究の実践

(1) A校の取り組み

ア 知識の定着を図る取り組み

- (ア) 単元はじめ、または単元終わりに単元まとめテストを実施した。
- (イ) 単元のまとめにレポート作成を行い、自分の知っている知識を活用し、作成した。
- (ウ) 振り返りカードに授業で習得した知識をまとめた。
- (エ) 指導や指示の際に、専門用語を繰り返し使ったり、生徒同士のコミュニケーションで専門用語を使うように促したりと、言語化を意図的にできるようにした。

イ 技能の定着を図る取り組み

- (ア) 生徒による相互評価として、少人数グループやペア等で互いにアドバイスし合いながら協同学習を行ったり、実技試験等で生徒が出来栄えや達成度を互いに評価し合い、改善すべきポイントを伝えあったりした。
- (イ) 教師が解説しながら、実際にプロ選手がプレーしている映像を流したり、競技経験のある生徒の動きを手本として他の生徒に見せたりするなど、良い動きのイメージができるように工夫した。
- (ウ) 技能レベルごとに活動場所を分け、生徒が自身で活動場所を選択し、技能レベルに近い生徒同士で協同学習を行うなど、学習グループの分け方の工夫をした。
例：器械運動で後転系が苦手なグループと発展技に挑戦したいグループに分けるなど

(2) B校の取り組み

ア 知識を習得する場面

- (ア) 事前学習で実技書や見本動画、インターネットでの検索などから技の動きを分析し、技のポイントや、どの場面で活用される技なのかなどの知識を学習カードにまとめた。
- (イ) 技能のポイントをキーワード化し、それを言葉で発言しながら学習を進めた。
例：走り幅跳びの踏切（最後の2歩）リズム→「タ・ターン」
ソフトボールの捕球後のステップ→「右・左・右」
- (ウ) 学習カードに学んだことを記入

イ 知識を活用する場面

- (ア) 器械運動の単元でICT機器で自分の動きを撮影し、良い動きとの比較・分析を行った。
- (イ) 学習したポイントなどを記載したチェックシートを用いて、生徒同士で相互評価を行った。また、その評価をもとに改善すべきポイントや課題を伝え合い、動きを修正する時間を設ける。
- (ウ) 事前に自己・チームの課題や技の改善すべきポイントなどを学習カードに記入し、自身で考えた課題に応じた練習方法を選択し、実践した。（思考・判断・表現とも関連）

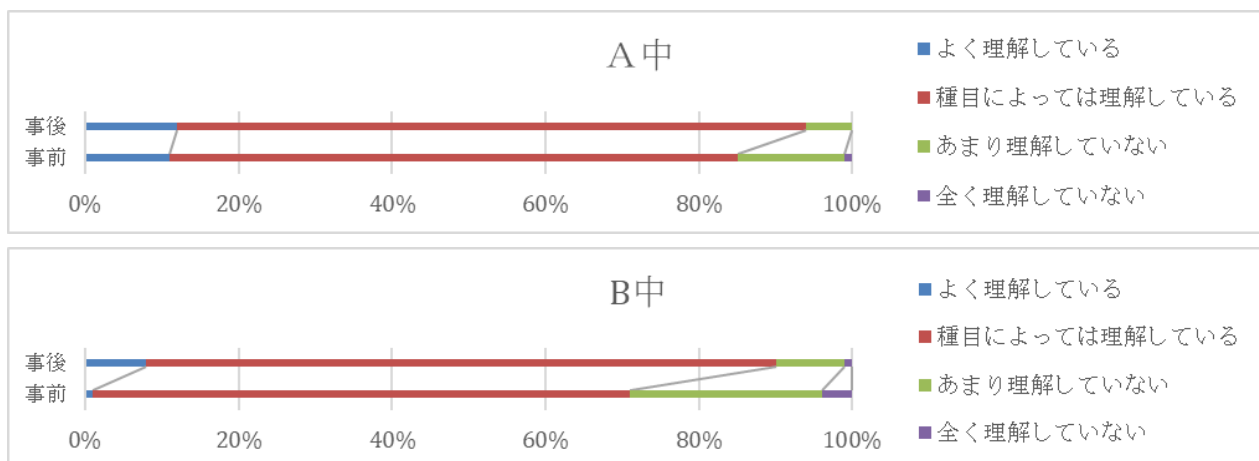
5. 研究の成果

5 研究の結果

(1) 事前事後アンケートの比較

生徒に「授業に関するアンケート」を令和5年度の1学期（事前）と3学期（事後）に行った。事前と事後のアンケート結果から次のような結果が見られた。

ア 体育の授業で行っている種目や競技のルールや歴史、動きのポイントなどの「知識」について、どの程度理解していますか。



イ 体育の授業を通じて、運動の技能が高まったと感じますか。



(2) 考察

ア 知識の習得について

アンケート結果から、今年度の授業実践を通じて、知識が身についた実感を持っている生徒が多く見られた。また、授業中での話し合いや試合の場面、振り返りカードの記述等から、専門用語や技能のポイントを言ったり書いたりしている様子が多く見られ、生徒の知識の定着を見取ることができた。

イ 技能の習得について

アンケート結果から、今年度の授業実践を通じて、技能が向上した実感を持っている生徒が多く見られた。技のポイントや効果的な練習の仕方を理解した上で練習することで技能が習得しやすく、さらに学習したことを他者に伝えたり、課題を解決する方法を見つけたりすることなどができるようになったことから、技能の定着につながったのではないかと考えられる。その結果、生徒

自身も技能の向上を感じられたのではないかと考察した。

ウ 生徒の学習意欲について

アンケート結果から、「初めてやるスポーツでも、興味を持つことができた」「チャレンジしてみようと思えるようになった」「より競技を楽しみやすくなった」「ただ運動するだけでなく、知識を身につけることでその種目がもっと楽しく感じられた」「今まで積極的に取り組めなかった競技のコツを知ることで、少しだけやってみようという意欲が湧いた」など学習意欲に対して肯定的な記述があった。

知識が身についたことにより、その知識を活用して技能を身につけることができた。また、技能を身につけるために必要な課題を見つけたり、改善すべきポイントを言ったり書いたりすることができるようになった。そして、生徒が何に取り組んだらよいか分かるようになったことから、学習に対しても前向きに粘り強く取り組むことができるようになった。以上のことから、知識を身につけることで、生徒の学習意欲を引き出すことができたのではないかと考察した。

6. 今後の課題

本研究の中で、多くの生徒が知識を身につけることが技能習得の一助となり、その結果、生徒の学習意欲を引き出すことができたと分析したが、一方で技能の向上を実感できなかった生徒もいた。

知識の習得が必ずしも技能の習得に直接つながるとは限らないこと、また、知識を習得したことにより、自分の動きが「できていない」と感じてしまう生徒がいたと考えられる。「できた」ことを実感できるための練習方法や内容の検討、グループ分けの方法を工夫していくことが必要である。そして、「見本と同じように動けていない＝できていない」ではなく、少しでも「できた」部分に目を向けられるように授業をアプローチしていく必要がある。

また、学習活動に対して、はじめから「自分はできない（から、頑張れない）」と思っている生徒もあり、「知識」を身につける時点でつまづいてしまっていた。「知識」を身につけるために必要な「主体的に学習に取り組む態度」を引き出す授業の工夫を研究する必要もある。

そして、書けるが伝えられない・伝えられるが書けない生徒もあり、学習カードの記述のみではなく、ICT機器で課題を与え、入力をするという形をとったり、うまく言葉で伝えられない場合の教師や仲間の手助けの方法などを工夫したりする必要がある。

以上の課題を踏まえ、引き続き、授業改善の工夫を図りながら、生徒の学習意欲を引き出せるような授業づくりをしていきたい。

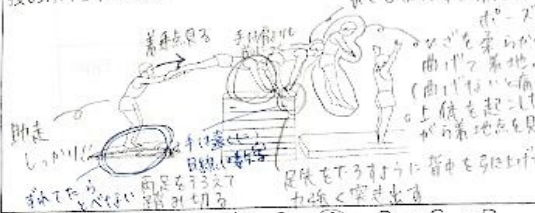
<資料>生徒が記入した学習カードの内容

学習した技について(知識)

①共通して学習する技

○開脚跳び 自己評価: S・A・B・C・D

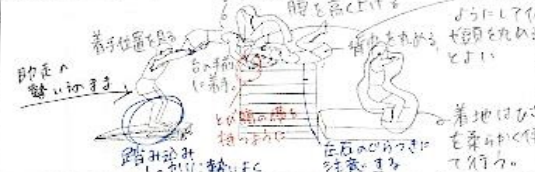
技のポイントやコツ



つまづいた時にどんな練習をしたらよいか
 ○段階練習をする(低い段から、ステップの幅を
 手をつく位置を遠くにする(真ん中や外側)練習
 ○肩を肩より高く上げて、足を振り上げる
 ○足を振るべく大きく開く(横の場合)
 ○着地は踵(足を開き、しっかり止まる)
 ○マットが置いてある方の面のどしどし箱の数字を
 見て跳ぶ。のびきりあるように
 ○踏切の線を強く、大きくする。足をそろえて踏みこ

○台上前転 自己評価: S・A・B・C・D

技のポイントやコツ



つまづいた時にどんな練習をしたらよいか
 ○踏み切りを引く。ローター板から高くジャンプ
 ○手は、どしどし箱を引くようにしてつく
 ○回転するときはおへそをみて、後頭部をど
 しどし箱につくようにして回る
 ○足を高くあげ、顔(頭)をまわらせる(頭を箱に
 こわいときは、まず顔を跳び箱につける(顔を箱に
 こわいときは、まず顔を跳び箱につける(顔を箱に
 こわいときは、まず顔を跳び箱につける(顔を箱に
 こわいときは、まず顔を跳び箱につける(顔を箱に

○抱え込み跳び 自己評価: S・A・B・C・D

技のポイントやコツ



つまづいた時にどんな練習をしたらよいか
 ○段階練習をする
 ○肩と足を近づけてとぶ
 ○どしどし箱の反対側を見るぐらいの勢いでとぶ
 ○なるべく高くをみるイメージ、助走の勢いをその勢いで
 とぶイメージ、まずどしどし箱にきて、その上から
 降りたり、おへそを練習する、徐々に勢
 いをつけたり、足を高くにのびるイメージ練習する
 ○つまづいた時に開脚、足を高くにのびるイメージ練習する
 ○つまづいた時に開脚、足を高くにのびるイメージ練習する

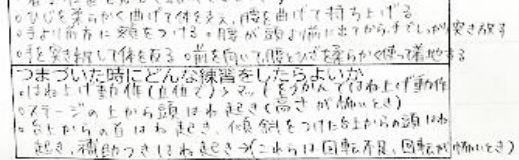
②自分で選択した技

→発表会で発表した技が①共通して学習する技以外のものを選択したときに書く

技①【頭はね跳び】

自己評価: S・A・B・C・D

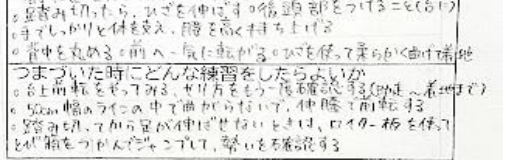
技のポイントやコツ



技②【伸腰台上前転】

自己評価: S・A・B・C・D

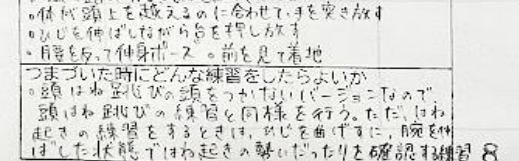
技のポイントやコツ



技③【屈体腕倒回転跳び】

自己評価: S・A・B・C・D

技のポイントやコツ



<記入するポイント>

○技のポイントやコツ

→どのように行えばよいか
 -技の行い方
 ※運動の行い方のポイントやコツ

○つまづいたときにどんな練習をしたらよいか

⇒「どんな方法で」行えばよいか
 =課題解決の仕方や運動観察の仕方
 ※なぜこの方法でやった方がよいのか考えられるとよい

幅跳びチェックシート

<相互評価の行い方>

<跳ぶ人>

- ・自分が走る時に、他の班員にチェックシートを渡して、評価をしてもらう
- ・評価を見て、自分の動きを改善する

<見る人>

- ・評価する観点の分担をする
- ・評価をする観点を、以下の基準をもとに評価をつける
- ・評価をつける時は「なぜその評価なのか」を説明できるようにする
- ・評価をつけた上で改善点を伝える ⇒ これが一番大事!

○評価基準

- A…問題なくできている
- B…できているが、改善できるところがある
- C…上手くできていない、ポイントを間違えている

評価の観点 助走	評価	評価した人
全力で走れているか		
踏み切り前で減速していないか		
評価の観点 踏み切り	評価	評価した人
踏み切り足が踏切板ぴったりにあっているか		
両腕が引き上げられているか		
ラスト2歩のリズム「タターン」ができているか		
足裏全体を使って踏み切れているか		
評価の観点 空中動作	評価	評価した人
振り上げ脚がしっかりと引き上げられているか		
両腕が引き上げられているか		
評価の観点 着地	評価	評価した人
両足が揃っているか		
足を前に投げ出すように着地しているか		
しゃがんで着地しているか		

<アドバイスの仕方>

○○(評価の観点)が_____なっているから(現状を伝える)
_____した方がいいよ(改善点を伝える)